

## Donation

### 私たちと一緒に早期支援を全国へ届けませんか？

発達障害は非常に数が多い障害です。診断がつかずとも特性のある方もいれるとかなりの数が「発達に関わる支援」を必要としています。  
社会課題の解決に向けて、ぜひ皆様からの温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

#### 皆様のご寄付がこんな支援につながります

**01** 質の高い個別療育「べあすく」を全国へ



**02** 支援者向け研修システムの開発



**03** オンライン発達相談をより多くの保護者へ



3,000円 5,000円 10,000円 の中から金額が設定でき、下記2つのコースからお選びいただけます。

#### 継続(毎月・毎年)コース

子ども達の成長を、いつも変わらず見守っていただけるサポーター向けのコースです。毎月変わらずサポートしていただけることで活動が広がっていきます。サポーターの皆様に向けて、年1回の活動報告書に加えて、メールやオンラインでの活動報告も行っております。

#### 単発コース

思い立ったその時に、子ども達への気持ちが届いたコースです。ご支援頂いた方には、年1回の活動報告書にて社会課題解決に向けた活動を、具体的にご報告させていただきます。

ご支援は  
こちらから



寄付は振込口座またはクレジット決済がご利用いただけます

- 口座振替(寄付申込書のご提出をお願いします)三菱UFJ 銀行 恵比寿支店 //(普)0284405 特定非営利活動法人 ADDS
- クレジット決済・寄付についての詳細はコチラをご覧ください <https://adds.or.jp/support/>



古本での寄付「チャリボン」

古本のリユースを活用して寄付ができる「チャリボン」からもADDSに支援可能です。

### ADDSの発達支援プログラム

「べあすく」や  
AI-PAC®実装



エビデンスに基づく支援を提供したいと考えの事業者様に対し、研修や定期的なスーパーバイズを通して、「べあすく」やAI-PAC®を活用した効果的な支援提供を全力でお手伝いしています！AI-PAC®は、お子さんにぴったりの支援メニューを組み立て、記録を付けてその成果を可視化できる画期的な発達支援サポートシステムです。発達心理学やABAの知見に基づき選ばれた600を超える課題や解説動画、豊富な教材が効果的な支援の実施を支えます。

初級ABA  
セラピスト認定事業



ABAに基づく支援についての基礎知識とスキルの獲得を目指す研修プログラムを提供し、初級ABAセラピストとして認定しています。座学やロールプレイで終わらず、お子さんを相手にした実践研修があることが最大の特徴です。発達障害のあるお子さんに対し、よりよい関りができるようになりたいと、多様な職種の方々をご参加くださっています。認定後も継続して研修に参加し、スキルアップを続けることができるフォロー体制も整っています。

オンライン発達相談  
kikotto



全国どこからでもお子さんの発達について専門家に相談できるオンライン相談サービスです。経験豊富な相談員が、12歳までのお子さんの発達についてマンツーマンでお答えします。発達について悩んだ時、どこに相談すればよいかわからない、すぐに相談できる場がない…そんなお声が多くありません。kikottoは、お困りごとへのアドバイスだけでなく、一緒に地域の相談先を調べるなど、お子さんとご家族が安心して次の一歩を踏み出せるようサポートします！



発達「支援」の、その先へ

ADDS

Advanced Developmental  
Disorders Support

すべての人が  
希望をもって  
生きていける社会へ



## 2022 ANNUAL REPORT

特定非営利活動法人ADDS 2022年度年次報告書

# 数字で見るADDS

2022年のADDSの活動を数字でふりかえりました。

## 「エビデンスに基づく発達支援」を提供した親子の数

AI-PAC<sup>®</sup>やべあすくを提供した実人数と延べ人数です



実人数

359人

2021年度 282人

延べ人数

17,664人

2021年度 7,303人

江戸川区発達相談・支援センター、ADDS kids 1st 荻窪、ADDS kids 1st 鎌倉、全国で質の高い支援に取り組まれている実装先機関（一般社団法人キッズライン、NPO法人子育てネットくすくす、児童発達支援・放課後デイサービス子どもサークル、児童発達支援にじいろデイズ市川新田、ぶりんぐあっぷぶちば子ども発達センター、社会福祉法人まつど育成会、児童発達支援マルシェ、児童発達支援センターゆーかりの森〔五十音順〕）とともに提供

べあすく  
提供事業者



※実人数・延べ人数（実際に提供したコマ数）とは？ 例：10名のお子様へべあすくを提供し、全員が月4回利用した場合…実人数10×月4回通所×12カ月＝延べ人数480となります。

データ解析数



AI-PAC<sup>®</sup>に蓄積された療育課題に関する延べ2,402,211件のデータを解析し研究を行っています。

AI-PAC<sup>®</sup>とは…行動的・発達の観点による5領域600課題からなるカリキュラムを軸に、1人1人のお子さんに合わせた進捗管理や、記録を通じた家庭との連携、支援計画の作成や、教材や動画の活用などができる革新的なアプリケーションです。

2,402,211件

2021年度 1,928,581件

相談支援提供延べ人数

相談支援を提供した延べ人数です。江戸川区発達相談・支援センター、オンライン相談サービスkikottoにて受け付けた様々な相談に対応しました。kikotto

10,586人

2021年度 8,059人

学びを提供した支援者の数

研修・シンポジウム・ワークショップ・セラピスト育成・実習など様々な形で「支援者の学びの場」を提供しました。

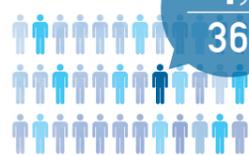
5,082人

2021年度 2,552人

## 数字で見る発達障害

発達障害は非常に数が多い障害です。米国疾病予防管理センターが2023年に発表した調査では、36人に1人が自閉スペクトラム症（発達障害の1つ）であるとされています。診断がつかずとも特性のある方もいれるとかなりの数が「発達に関わる支援」を必要としています。2022年に文部科学省が発表した「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について」の中で、学習面又は行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒数の割合が、小学校・中学校において推定値8.8%と、前回よりも2.3%増え、支援を必要とする児童生徒は増加しているとされています。前回の調査から10年で義務教育段階において通級による指導を受ける児童生徒の数が約2.5倍になっていることから、発達障害という診断がつかずともかなりの数が発達に関わる支援を必要としていることが分かります。ご本人やご家族が抱える困難さは、皆で考えていかなければならない、誰もが当事者になりうる課題です。ADDSでは未就学児を対象にした早期支援の提供・研究開発・支援者育成など様々な角度からの支援を通じて、社会課題への解決に向けた活動を続けて参ります。

1人  
36人



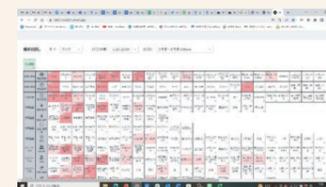
寄付はこちらから



## 1

### 「市民科学とパーソナルデータを基盤とした発達障害支援の臨床の知の共財化」プロジェクトの成果—AI-PAC<sup>®</sup>を活用した発達課題レコメンドシステムの開発と検証

プロジェクトの一環で、発達支援アプリAI-PAC<sup>®</sup>の支援記録をベースにした研究に取り組みました。40名の発達課題や支援方法の蓄積データ×発達年齢等の基本プロフィールを関連付けて解析した結果、発達年齢の低い子どもほど、課題設定順序に規則性が高いことが示されました。これらの分析結果をもとに、発達年齢に応じた初期課題レコメンドシステムのプロトタイプ版を開発し、現場のスーパーバイザーとの一致度検証を行った結果、約70%となり、一定の妥当性が示されました。今後の実用化に向けて、さらなる実証研究や開発を進めてまいります。



初期設定課題のレコメンド画面イメージ

## 2

### 「だれ一人取り残されることのない」社会の実現に向けた政策提言・発信

発達支援を必要とする子どもたちが、政策や制度に取り残されることのないよう、様々な発信や提言を行いました。  
・こども家庭庁小倉将信大臣による鎌倉事業所視察と提言（2022年11月）  
共同代表の熊より、障害福祉分野におけるEBPMの徹底や支援ガイドラインの策定などを提言させていただきました。



### SCI-Jと協働し、子どもウェルビーイングの指標開発や予備調査を実施

デジタル庁が推進するデジタル田園都市構想のウェルビーイング指標開発を担う一般社団法人スマートシティインスティテュートジャパン（SCI-J）と協働し、子どもウェルビーイングの指標開発や、予備調査等を行いました。  
・自民党議員による非営利セクター意見交換会における提言（2022年10月）  
・厚労省へのプロジェクト報告・提言（2022年11月）  
・自民党議員への提言書提出（2022年11月）



## 3

### エビデンスで繋がる支援者の学びの場「EDS-NETWORK」を実装

オンライン上で発達支援の基本となる質の高い学びを得られる「エビデンスに基づく発達支援スキルアップ講座」をローンチし、合計100名以上の方にご利用いただき、実運用がスタートしました。また、行動分析学会に後援いただき強度行動障害への応用行動分析学による支援をテーマにした研修会を動画で開催し、合計2,000名以上の方にお申し込みいただく事ができました。

EDS-NETの  
活動はこちら



重版決定！！



こちらから購入できます

～第一章～  
発達支援の概要

## 2022年 活動実績

- 4月 ・世界自閉症啓発デー「発達に気になる子育て・曲折浮沈すごろく」を公開  
・書籍出版（法人共同代表熊・竹内共著）「『できる』が増える！『困った行動』が減る発達障害の子への言葉かけ事典」
- 5月 ・読売新聞掲載「発達障害にICT。成功を可視化、共有できるAI-PAC<sup>®</sup>」 ・オンライン発達相談kikotto14日間無料スタート
- 7月 ・発達支援スキルアップワークショップ～現場の悩み事を解決する学びと交流～EDS-NETWORK開催  
・オンライン発達相談kikottoが無学年式教材「すらら」と協働を開始 ・緊急ウェビナー「強度行動障害に対する応用行動分析学からのアプローチ～より正確な情報提供のために～」開催  
・電通英会話会報誌インタビュー掲載「課外活動へ踏み出そう」
- 9月 ・2021年度活動報告書を公開 ・発達支援スキルアップ講座リリース（EDS-NETWORK）
- 10月 ・EDS-NETWORK無料研修会第1弾「強度行動障害への応用行動分析学による支援シリーズその1～子どもの行動から考えるポジティブ行動支援～」配信開始  
・雑誌AERAインタビュー記事掲載「早期支援、背景にある社会課題」  
・EDS-NETWORK無料研修会第2弾「強度行動障害への応用行動分析学による支援シリーズその2～強度行動障害への応用行動分析学による介入：ポジティブ行動支援のための研修プログラムと地域行政との連携～」配信開始  
・書籍出版記念オンライントークイベント第1回開催「子どもとの関わり方を専門家に聞いてみよう！」
- 11月 ・初級ABAセラピスト養成研修スタートアップ版リリース ・書籍出版記念オンライントークイベント第2回開催「子どもとの関わり方を専門家に聞いてみよう！」  
・子ども政策担当の小倉大臣へ要望書を提出「現場と保護者の声として障害児支援施策におけるエビデンスに基づく政策決定（EBPM）要望書」  
・ECナビ基金「スマイルプロジェクト」寄付先団体に選出いただく
- 12月 ・Eduwell Journalインタビュー掲載 ・先行事例を集めた「対人支援における科学技術活用ハンドブック」公開  
・書籍出版記念オンライントークイベント第3回開催「子どもとの関わり方を専門家に聞いてみよう！」
- 1月 ・ラジオKamakuraFM出演「関りから笑顔を増やそう！応用行動分析学ABA」 ・学生セラピスト部「託児ルーム」開催  
・「My Bus Stop」移動型コミュニティ鎌倉イベントにて啓発活動第1弾
- 2月 ・シンポジウム「発達障害×テクノロジー【当事者のウェルビーイングを目指す科学技術の活用】～だれひとり取り残さないDXの推進～」開催  
・「My Bus Stop」移動型コミュニティ鎌倉イベントにて啓発活動第2弾
- 3月 ・行動リハビリテーション研究会年次大会にて熊特別講演「エビデンスにもとづいた早期発達支援・特別支援教育：リハビリテーション」との連携  
・「My Bus Stop」移動型コミュニティ鎌倉イベントにて啓発活動第3弾
- 4月 ・世界自閉症啓発デー「歩こう話そうTALK&WALK2023」イベント内のシンポジウム「強度行動障害～ABAに何ができるか～」竹内登壇  
・学生セラピスト部による「自閉症疑似体験」ブース

学生セラピスト部  
活動報告

学生セラピストの  
活動をこちらで  
公開しています。



# Mission わたしたちの使命

発達支援が必要なすべての人が  
自分らしく学び希望をもって生きていける  
社会をともに実現します



## 保護者とともに取り組むこと

わたしたちは、保護者は子どもの一番の専門家になれると信じています。子どもが学ぶ過程をしっかりと共有し、その親子らしい学びのスタイルをともに築くことを大切にしています。



# Message 代表メッセージ

## 発達特性がある人が生きやすい社会づくり

2022年度も、多くの皆様からの温かいご支援によって活動を継続できましたこと、まずは心より感謝申し上げます。2009年の春、マンションの一室を日曜日だけ借り、たった5家庭を対象に始めた活動が、今では全国各地に連携してくださる拠点が増え、質の高い発達支援を地域の親子に届けるネットワークに発展してきました。もちろん目標達成にはまだまだ程遠く、自分たちの無力さや未熟さと向き合わない日はありません。それでも、お子様とご家族の笑顔と成長、皆様のご支援と温かい励ましに支えられ、一歩ずつ歩みを進めることができている。

本年度は、世界にとって激動の年となりました。ロシア軍のウクライナ侵襲により、多くの犠牲者や故郷を失う人々が出ています。国内では内閣総理大臣が銃弾に倒れるという衝撃的な事件もあり、民主主義を揺るがす大きな不安が社会全体に広がりました。社会制度や資本主義の狭間にこぼれ落ちた人々の孤独や孤立、社会の歪みがこれまで以上に浮き彫りになった年でもありました。

このような時代において、私たちソーシャルセクターの役割はより重みを増し、当法人の立ち位置も少しずつ変化を求められていると感じます。発達支援の枠組みの中で研究開発を重ねて支援の質を高めていくことに加え、地域における良い実践モデルとデータをもと



熊仁美  
共同代表/心理学博士/公認心理師

竹内 弓乃  
共同代表/臨床心理士/公認心理師

に、制度への働きかけを始めたこと、子育て支援や学童保育など、少し広い領域の皆様との協働が増えてきたことは、本年度の大きな変化といえます。

また、こども家庭庁の発足や、いくつかの傷ましい事件もきっかけとなり、我が国でもやっと子どもの人権擁護と障害者虐待防止の取り組みに光が当たり始めています。当法人が事務局を務めるEDS-NETWORKで2回にわたり開催した「強度行動障害への応用行動分析学による支援シリーズ」は、2000名を超える方から受講申し込みをいただきました。現場で日々お子様や利用者様と向き合う支援者の方々の、切実なニーズを改めて感じる機会ともなりました。引き続き、子どもたちの最善の利益と、だれもが環境を含めた健康な育ちと学びを保障される社会の実現に向けて、多くの方と手を取り合って進んでまいります。

引き続き温かいご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

共同代表

熊仁美 竹内弓乃

# History わたしたちの歩み

- 2003 学生時代の「お話が苦手な幼稚園児に、遊びの中で言葉を教えるアルバイト」が自閉症の支援をはじめるきっかけに。
- 2006 学生団体「慶應発達障害支援会(KDDS)」設立。大学院にて研究・臨床活動。
- 2009 ●任意団体(ADDS)の設立 ●「早期療育スタートアッププロジェクト 2009」 ●学生セラピスト部第1期生スタート ● NEC 社会起業塾8期生に選出
- 2011 NPO法人化 ● 恵比寿指導ルーム ● 「早期療育スタートアッププログラム」提供数増加 ● 他事業者へのセラピスト養成・研修提供開始
- 2013 ● 新宿指導ルーム開所 ● 「児童発達支援事業」スタート ● はじめて職員が入社
- 2014 ● 2事業所目「ADDS Kids 1st 荻窪」開所 ● 「発達の気になる子と家族の勉強会」
- 2015 ● 情報発信サイト～Hütte～イベント開催 ● Hütteカフェ(先輩ママ座談会) ● 謎解き×自閉症体験プログラム「88ぶんの」 ● 「べあすく」開始
- 2016 ● 「早期療育スタートアッププログラム Ver.2」開始 ● 「べあすく」のレギュラー化 ● NHKあさイチ発達障害特集 ● JST/RISTEX「研究開発成果実装支援プログラム」に採択
- 2017 ● 「べあすく」各地への実装スタート ● 課題構成システム「AI-PAC」開発完了 ● ミサワホーム・セントスタッフ放課後等デイサービス「ミライエ」技術提携
- 2018 ● 3事業所目「ADDS Kids 1st 鎌倉」開所 ● AI-PAC®実装公啓説明会
- 2019 ● 年度戦略的創造研究推進事業「科学技術イノベーション政策のための科学研究開発プログラム」に採択
- 2020 ● 江戸川区発達相談・支援センターOPEN(指定管理事業) ● クラウドファンディング「コロナに負けない。認知発達相談プラットフォームを立ち上げたい」達成 ● みてね基金採択
- 2021 ● オンライン発達相談サービスkikottoリリース
- 2022 ● オンライン発達相談kikottoが無学年式教材「すらら」と協働を開始 ● 初級ABAセラピスト養成研修スタートアップ版リリース



## 研究成果に基づいた手法を選択すること

わたしたちは、応用行動分析学(ABA)に基づいた支援を行います。ABAは、具体的な目標を立て、達成度を見極め、支援方法を進化させていくPDCAのサイクルを繰り返します。子どもの豊かな学びに徹底的に向き合う方法論です。



## 社会に変化を起こすこと

子どもたちは、かかわる人や環境から様々なことを学びます。わたしたちは、すべての人が、子どもたちの良き理解者、支援者となる社会の仕組みづくりに取り組んでいます。

# Project ADDSの事業

## 研究開発

ADDSでは、効果のあるプログラムを自組織だけで提供するのではなく、全国各地の既存の療育機関でも活用いただけるよう、**療育支援システムAI-PAC(特許第6872811号)や人材育成プログラム**の開発を行ってきました。2016～2019年にはJST/RISTEX「研究開発成果実装支援プログラム」に「エビデンスに基づいて保護者とともに取り組む発達障害児の早期療育モデルの実装」が採択され、全国各地の支援機関と連携し、**エビデンスに基づく療育支援が地域で提供される多くの事例**を生み出しました。2019～2022年

調べる・生み出す



には、JST/RISTEX「科学技術イノベーション政策のための科学研究開発プログラム」に「オープンサイエンスに基づく発達障害支援の臨床の知の体系化を通じた科学技術イノベーション政策のための提言」が採択され、**教育・福祉など対人支援領域におけるデータの利活用の可能性や障壁調査**を行いました。**現場の質の高い実践から得られる臨床の知が、より多くの親子に届くよう、今後も研究と開発を続けてまいります。**

支える



## 障害児通所支援事業・指定管理事業・オンライン発達相談

ADDSの親子向け療育プログラム「べあすく」は、**発達心理学と応用行動分析学**という2つの学問領域に基づいています。お子様の発達状況を丁寧にアセスメントし、一人ひとりに合った療育カリキュラムを構成、進捗に合わせて丁寧に更新することで、効率的に発達を促します。また、保護者の方にも学びの機会を提供し、家庭でも療育ができるように丁寧に課題内容を共有します。「保護者は子どもにとって一番の理解者であり支援者である」という理念のもと、ご家族とチームになってお子様一人ひとりのその子らしい学びをサポート

します。2009年任意団体ADDS立ち上げ当初は、5家庭を対象に始めた取り組みでしたが、現在は、ADDS Kids 1st 荻窪・ADDS Kids 1st 鎌倉・江戸川発達相談・支援センターの3拠点で、**年間100家庭以上**へ提供できるようになりました。また、新型コロナウイルス感染症の拡大をきっかけに、全国どこからでもお子様の発達について専門家に相談できるオンライン発達相談サービスも提供しています。**今後は、より多様な環境にあるお子様や保護者様のニーズに答えられる支援の形を生み出していきます。**

育てる・広げる



## 支援者育成事業

ADDSは、立ち上げ当初より「**支援者の学びの場**」であることを大切にしてきました。現在、全国の障害児通所支援事業所(児童発達支援・放課後等デイサービス)は2万6千カ所にのぼり、日々多くの支援者が熱心に支援にあたっています。しかし、体系的な研修制度やプログラムをもつ事業者はまだ少なく、全国的な支援の質のばらつきが課題となっています。また、保育所、幼稚園、子育て支援、学校、学童などでも、発達特性のあるお子様への対応ニーズは大きいです。ADDSでは、全国の既存の療育機関向けに、療育支援システム

「AI-PAC®」や人材育成プログラムの提供を行っており、現在までに**全国21事業所**に提供し、連携機関の皆様と一緒に**EDS-NETWORK(エビデンスに基づいた発達支援全日本ネットワーク)**を設立しました。また、個人の支援者向けに「**初級ABAセラピスト養成研修**」の提供や、**学生セラピストの養成**なども行い、受講生が教育・福祉分野をはじめ社会の様々な領域で活躍しています。**今後は、支援者の学びの場としての機能をさらに重視して、多くの団体と手を取り合って、持続可能な学びのネットワークを築いていきます。**



We support ADDS!

はーくんパパ



最高の出会いでした!

息子、はーくんはいつも「出会う人に恵まれる」事が多い子でして、その最初にして最高の出会いがADDSさんでした。世の中、障害を持つ子のご家庭は特にですが「早くこれを知りたかった!」と後になってから思う事は多いと思います。その「最初にこれを知っておくといいですね!」という部分を親子共々しっかり教えて下さり(ペアトレ教材が秀逸です。子供との接し方の基本が判りました)、そして子供の気になる部分についてもいつも相談に乗って下さり、我々障害児家庭が就学等へ向けて親と子がともに飛び立て行く時の温かい風に、一番の心強い味方になって下さいました。無発語だったはーくんですが、小学4年生の今、ひっきりなしに喋り、あれを食べたいですとか、お友達の誰々さんが何々したですとか、明日は何々の日!ですとか、沢山の事を親にお話ししてくれます(今も変わらず大変可愛いです)。この姿へ向けて最初に背中を押してくれたのがADDSさんであることは間違いありません。これからも応援しています。

We support ADDS!

ゼロトゥワン代表取締役社長  
荻原 国啓  
(ピースマインド創業者)



14年の軌跡に感服しています!

ADDSとご縁が始まったのは2009年ごろ。まだ創業メンバーの竹内さん熊さん原さん加藤さんが慶應の大学院卒業前後に任意団体としてスタートされたとき。ABAを活用して発達障害のお子さんと親御さんの療育支援をしていきたい!と目をキラキラ輝かせて相談にきてくれたのがきっかけです。当時、日本では療育を受けられる環境が遅れている中、セラピストの育成やお子さんの療育プログラムを立ち上げられている時でした。それから約14年。発達支援事業、指定管理事業、データ解析、オンライン発達相談と着実に創業当時の志を形にしてきた皆さんの誠実な想いと粘り強い努力と推進力に感服し、リスペクトしています。「発達障害という概念が必要ない未来へ」「発達支援が必要なすべての人が自分らしく学び希望をもって生きていける社会をともに実現する」ミッションは創業からの想いが建設的に昇華されていて僕も大好きです。ワクワクしながらこれからも応援させていただきます。

I work in ADDS!



瀧川 桂子  
江戸川区発達相談支援センター相談支援専門員/  
社会福祉士・公認心理師・保育士

[経歴] 高齢者福祉施設でソーシャルワーカーとして勤務後に発達心理学を学ぶ。知的障害と自閉症がある甥がきっかけとなり、児童発達支援事業所で児童指導員として勤務し、現在に至る。

初級ABAセラピスト  
研修の詳細はこちら



ADDSで働きたいと思った理由は何ですか?

以前働いていた療育の現場で、お子さんの力の引き出し方を知りたくて、ADDSの「初級ABAセラピスト研修」を受講しました。お掃除ロボット「ルーロ」が好きなお子さんのセラピーを見学した時に、スタッフの方は「ルーロ」の歌を自作して歌ったり、絵を描いたり、動きを体で表したり…「ルーロ1つでこんなに楽しませることが出来るのか!」と衝撃を受けました。また、実践研修でセラピーを上手くできない私にも、スタッフの皆さんは必ず良かったところをフィードバックして下さいました。前向きでポジティブ、かつ理論に基づいて療育をおこなっているADDSで働くことで、私も成長したいと思いました。ABAセラピスト研修や事例検討会、保育所等訪問支援事業等の「支援者支援」もADDSだからこそできることだと思っています。

今後の夢は何ですか?

ご家庭での環境調整のお手伝いご家庭でお子さんの見守りができるような支援等、ご家庭でご家族が過ごしやすくなる支援があると良いなあと思います。外国籍の方への支援の充実を願っています。

データの前提

特定非営利活動法人ADDSは「発達支援が必要なすべての人が、自分らしく学び、希望をもって生きていける社会をともに実現します」というミッションを掲げ活動しています。利益は継続的に支援と研究を続けていく為に必要不可欠なものであると考え、本ページにおいて財務情報の開示を行い、経営の透明性を高めてまいります。

2022年度の正味財産増減額は約1,103万円となりました。また、経常収益に関しましては、2022年度も34,998万円となり前年度と同じ水準を維持し、400万円ほどの微増となりました。皆様に広くご支持とご支援を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。これからも、収益の安定化を目指し、継続的な事業の運営に役立ててまいります。

ADDSは事業の収入を主としておりますが、皆様からの寄付金や補助金、助成金等を新規事業や既存事業の改善に活用をさせていただいております。今年度いただいた寄付金や補助金につきましては、啓発活動や学生セラピストの活動、発達支援アプリAI-PAC®の支援記録をベースにした研究などに活用させていただきました。

今後も指定管理事業、障害児通所支援事業の安定的な運営とともに、支援者育成事業等の健全な運営やガバナンスの強化を行い、ミッション達成に向けてより精進してまいります。引き続き、皆様のご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



科目	金額	科目	金額		
経営収益	1 受領寄付金	1,999,108	経常費用	1 事業費	319,780,920
	2 受領助成金等	254,286,601		2 管理費	19,170,639
	受取補助金等	5,419,281	経常費計	338,951,559	
	指定管理収入	248,867,320	経常外収益計	0	
	3 事業収益	92,455,187	経常外費用計	0	
支援者育成事業	19,220,484	当期正味財産増減額	11,028,752		
障害児通所支援	65,736,915	前期繰越正味財産額	69,566,121		
EDS収入	7,095,488	法人税、住民税及び事業税	190,000		
収益事業	402,300	次期繰越正味財産額	80,404,873		
4 その他の収益	1,239,415				
経営収益計	349,980,311				

以上、NPO会計基準に従ってご報告いたします。ADDSは今後も財務の健全化と透明性に努めてまいります。

団体概要

正式名称	特定非営利活動法人 ADDS
所在地	東京都杉並区荻窪 5-16-14 カバビル5F(ADDS Kids 1st 荻窪)
施設概要	児童発達支援事業・主たる事務所
共同代表(理事)	熊 仁美 竹内 弓乃
理事	原 由子 加藤 愛理
監事	河野 良雄
法人資格取得	2011年12月16日
常勤職員	32名
非常勤職員	34名

運営事業所  
ADDS Kids 1st 鎌倉  
〒248-0014 神奈川県鎌倉市由比ガ浜三丁目11番48号 由比ガ浜こどもセンター 3F  
施設概要: 児童発達支援事業、相談支援事業  
江戸川区発達相談支援センター(指定管理)  
〒132-0031 東京都江戸川区平井四丁目1番29号  
施設概要: 児童発達支援センター、相談支援事業、発達障害相談センター



Webサイト



Twitter



Facebook



Instagram  
@NPO\_ADDS